

社会貢献できる専門職をめざす！

生活支援学専攻主任 教授 菊池義昭

生活支援学専攻では、社会福祉分野の高度な専門家（職）を養成し、社会に貢献する人材の育成を目指しています。社会に貢献していく最も有力な方法は、介護福祉士、社会福祉士、精神保健福祉士の資格を持って活動することではないでしょうか。本専攻では、4年間の教育を通してこれらの資格の基本となる講義や実習が学べるカリキュラムを編成しています。

日本は、現在、少子高齢社会となり、これに長引く経済不況と一昨年の中東大震災での甚大な被害が加わり、多くの人々が多様な日常生活上の困難に直面しております。このような生活困難に直面する一人ひとりの当事者に寄り添いながら、一緒に考え、生きる勇気と希望を持っていただけるような支援方法を、大学での教育を通じて学んでもらいたいと考えています。

介護福祉士を目指す学生には、これからさらに増加する高齢者などが、地域社会で生活していける支援方法や、また施設で生活する高齢者等にはより家庭に近い暮らしとなる介護のあり方を学んでほしいと思っています。



社会福祉士を目指す学生には、虐待を受けた児童、障害（しょうがい）を持つ人たち、高齢者やその家族等への相談援助の方法や、施設での支援について学び、ソーシャルワーカーの役割を自分の頭で考える演習を多く盛り込んでいます。また、一般病院で働く医療ソーシャルワーカーの仕事についても学ぶ機会を設けています。



精神保健福祉士を目指す学生には、これまで社会福祉の支援が届かなかった精神障害者の人たちが、地域社会の中で生活できるための援助方法を習得してもらいたいと考えています。